

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 29 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350496

研究課題名(和文) 地震防災に役立つ関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構の調査研究

研究課題名(英文) Field Survey for the Memorial Matters from the 1923 Great Kanto Earthquake in Kanagawa Prefecture, Japan

研究代表者

武村 雅之 (Takemura, Masayuki)

名古屋大学・減災連携研究センター・寄附部門教授

研究者番号：10416852

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：南関東地方には多くの慰霊碑や記念碑が建てられてきた。これらは犠牲者の慰霊や村や町の復興を記念したものである。1923年の関東地震では約10万5千人の死者が出た。慰霊碑や記念碑は地震災害の悲惨さを伝える目撃者であり、犠牲者の“二度とこのような災害を繰り返すな”という願いを伝える証言者でなければならない。しかしながら、その多くはすでに市民から忘れ去られている状況である。それらを地震防災に関する市民教育に使うべきではないかと考えた。そこで、本研究では野外調査を通じて主に神奈川県内における関東大震災に関する全ての記念物を明らかにすることにした。調査の結果、対象物は634件にも上った。

研究成果の概要(英文)：Many memorial towers and monuments have been constructed for the heavy toll of life and for the restoration of villages or cities in Southern Kanto district. Death claimed a toll of about 105000 totally from the 1923 Great Kanto earthquake. These towers and monuments must be forever witnesses to the tragedy of the earthquake damage and spokesmen for the victim's dying wish "don't repeat such damages". However, most of them have been already forgotten by the citizens. We thought it's sacrilege and must use them for the public education of earthquake disaster prevention. This investigation is a search for all the memorial matters from the Great Kanto earthquake mainly in Kanagawa Prefecture through the field survey. The number of the matters examined has been up to 634.

研究分野：地震学・地震工学

キーワード：関東大震災 神奈川県 慰霊碑 記念碑 地震防災 普及啓発

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代より始めた関東大震災の研究を通じて、一般市民が、より身近なものとして関東大震災を理解し、防災意識の向上に役立てるための素材として、現在まで伝わる慰霊碑や記念碑や遺構の活用が重要と考えた。

(2) 従来からの調査は不完全であり全ての対象物に対する正確な調査が必要である。

(3) 東京都23区内においては悉皆調査がすでになされ、武村(2012)年に成果がまとめられている。(武村雅之(2012)「関東大震災を歩く-現代に生きる災害の記憶」吉川弘文館)

2. 研究の目的

関東大震災の被害は1都9県におよび、その中で東京都に次いで大きな被害を出した神奈川県下(一部静岡県)で慰霊碑、記念碑、遺構の悉皆調査を行うのが本研究の目的である。神奈川県下では、横浜市に代表される火災の被害だけでなく、建物の倒壊はもちろん、土砂災害や津波災害など多様な災害を被っており、東京都よりも被害の様子は多様であり、地震災害を理解する上で、すこぶる価値のあることである。

3. 研究の方法

(1) 神奈川県(一部静岡県)を中部、西部・静岡県、東部の3地域に分けて、年度毎に順に調査し、3年間で調査結果をまとめる。最終年度には3地域の調査結果をすりあわせ必要に応じて追加調査も行う。

(2) 従来の調査結果に加え、対象地域内の市町村ごとにある図書館・文書館などを訪ね文献に記載された関東大震災関連の石碑や遺構などの所在や由来などを調査する。

(3) 上記文献調査の結果に基づき現地調査の計画を作成し、それに基づき現地調査を実施する。

(4) 調査結果をまとめ、地域毎に報告書を作成する。

4. 研究成果

(1) 調査は当初の予定通り実施することができた。表1に市町村別の調査時期ならびに報告書刊行時期を示す。調査は2013年4月から本格的に開始したが、それ以前にすでに調査を実施していたところに関しては、それらの成果も活用して年度毎に報告書をまとめた。2013年度は神奈川県中部、2014年度は神奈川県西部と静岡県東伊豆の熱海市と伊東市、2015年度は神奈川県東部である。熱海市と伊東市を対象としたのは津波被害が顕著な地域であったからである。

表1 市町村別の調査時期と報告書の刊行時期

市町村	調査時期
<b>西部・東伊豆 報告書 2015年3月刊行</b>	
真鶴町	2008年9月27日
湯河原町	2012年11月21日
小田原市	2013年12月6、9、10、19、20日
箱根町	2014年4月6-8日
南足柄市	2014年4月15-17日
山北町	2014年6月9-13日
開成町・松田町	2014年7月31-8月1日
大井町・中井町	2014年9月17日
熱海市*	2010年9月29-30日、2011年12月17日
伊東市*	2012年9月29日、11月21日
<b>中部 報告書 2014年3月刊行</b>	
藤沢市	2013年7月22-25日
茅ヶ崎市・寒川市	2012年7月1日、14日、22日
平塚市	2009年5月30日
大磯町	2013年5月10-11日
二宮町	2015年2月8日、10月9日
秦野市	2010年7月19日、12月18日
伊勢原市	2008年12月13-14日
厚木市・海老名市	2013年4月30-5月2日
綾瀬市・座間市	
大和市	2015年11月19日
相模原市	
愛川町・清川村	2013年8月18-19日、9月22日
<b>東部 報告書 2016年3月刊行</b>	
鎌倉市	2014年7月10日、11月5-6日、12月16-19日、27日、2015年1月11-13日
逗子市・葉山町	2014年11月6日、12月17日
三浦市	2008年12月22日、2015年6月29-7月1日
横須賀市	2015年4月5日、4月15-17日、5月4-8日、6月29-7月2日
横浜市	2006年3月23日、2010年4月24日 2012年9月14-15日、2013年2月22-23日、3月14-18日、4月13-14日、10月5日-6日
川崎市	2015年8月8日-11日、27-28日

\*静岡県

(2) 慰霊碑、記念碑、遺構の全てを調査することができた。調査地点は全体で455カ所、調査対象物は634件である。内訳は慰霊碑や慰霊施設が157件、復興を伝える復興碑などが251件、エピソードを伝えるものが117件、その他が30件である。慰霊碑には人間だけではなく震災で亡くなった馬に対するものが7件(うち1件は消滅)含まれている。また復興を伝える碑としては神社仏閣の社殿や鳥居や本堂などの復興、震災復興のために実施された耕地整理の碑、道路や橋梁などの復旧碑などが含まれる。なお横浜市については帝都復興事業で架けられた橋梁で今も現役で使われているものもこれに加えた。またエピソードを伝えるものとしては、2代目横浜駅などの遺構や震災復興などでの活躍を記した個人の顕徳碑、震災を潜り抜け震災時のエピソードを伝える樹木などがある。その他として、主に横浜市において、震災をくぐり抜けて現在も使用されている建物や橋梁、大量死の発生場所、大量避難場所なども加えた。

この他に、文献などでは存在が指摘されているが、消滅を確認したものは12件であった。また、調査の途中で気づいた関東大震災以外の震災や水害などに関するものも67件あり同時に調査した。中でも1703年の元禄地震によるものと1707年の富士山宝永噴火後発生した水害に関するものが多く、それぞれ22件と16件を数える。

表2 市町村別の調査地点と対象物の件数

市町村	調査地点	慰霊	復興	エピソード	その他	消滅	他の災害など	合計
真鶴町	4	2	4					6
湯河原町	1			1				1
小田原市	26	9	18	6			5	38
箱根町	9	2	2	4	1		2	11
南足柄市	18	6	10	5			9	30
山北町	29	5	14	3		1	17	40
開成町	3		1				2	3
松田町	2		2	1			1	4
大井町	3		4					4
中井町	1		1	1				2
熱海市*	3	3		1				4
伊東市*	20	4	1	15			7	27
<b>西部・伊豆</b>	<b>119</b>	<b>31</b>	<b>57</b>	<b>37</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>43</b>	<b>170</b>
藤沢市	20	5	15	3		2	1	26
茅ヶ崎市	13	4	7	3				14
寒川町	6	2	2	2				6
平塚市	15	5	10	1		1	1	18
大磯町	10	2	6			3	1	12
二宮町	2			2				2
秦野市	9	5	4	3				12
伊勢原市	4	2	1	1				4
厚木市	12	6	6	2				14
海老名市	4	1	3					4
綾瀬市	3		3					3
大和市	1			3				3
相模原市	10	4	9					13
愛川町	1	3						3
<b>中部</b>	<b>110</b>	<b>39</b>	<b>66</b>	<b>20</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>134</b>
鎌倉市	57	5	62	17	2	1	6	93
逗子市	7		9	1				10
葉山町	3		1	1			1	3
三浦市	10	1	5	2			3	11
横須賀市	36	19	20	13	2	1	4	59
横浜市	92	58	23	11	25	3		120
川崎市	21	4	8	15			7	34
<b>東部</b>	<b>226</b>	<b>87</b>	<b>128</b>	<b>60</b>	<b>29</b>	<b>5</b>	<b>21</b>	<b>330</b>
<b>全体合計</b>	<b>455</b>	<b>157</b>	<b>251</b>	<b>117</b>	<b>30</b>	<b>12</b>	<b>67</b>	<b>634</b>
*静岡県								

(3) 調査結果は「5. 発表論文等[図書]」欄に記載する「中部」、「西部(一部静岡県)」、「東部」の3冊、合計458頁(A4版)の報告書としてまとめた(図1)。報告書は国立国会図書館、関東地方の県立図書館、神奈川県内のすべての図書館、市町村の教育委員会などに配布して、普及・活用をお願いした。多くの機関から受領の知らせと蔵書として登録したむねの通知をいただいている。

内容については、各冊、冒頭で「関東大震災と神奈川県」と題した「震源と被害の概要」を前段とし、本文として、ほぼ表1の区割りで市町村別の調査内容をまとめている。調査対象物毎に写真とともに調査結果をまとめ、特に慰霊碑や記念碑については、正面、背面すべての記載事項を正確に記録するようにつとめた。以下、例として「県西部編」の真鶴町の真鶴小学校の調査結果を示す。

**真鶴小学校(真鶴町真鶴)**

JR 東海道線真鶴駅東約600mにある。校庭と反対側の校舎の後ろに中庭があり、そこに震災記念碑が建っている(写真)

**震災記念碑**

(正面)  
震災記念碑(題額)  
大正十二年九月一日地大二震フ本町ノ家屋倒壊算ナク火災二次ニ海嘯ヲ以テシ死者百傷者數百宛然焦熱地獄ヲ現ゼリ本校舎亦倒壊火ヲ失ス時正午ニ近ク幸ニモ児童退出後ナリシガ訓導鈴野幸次郎神戸好雄高橋斗三郎齋藤キワノ四氏執務中難ニ殉ジ兒童十數名亦其家ニ在リテ惨死セリ校長岡田英治氏身ヲ挺シテ猛火ノ中ヨリ 御眞影ヲ避難シ奉リタルモ亦重傷ヲ負フ斯クテ校舎全部烏有ニ歸セルガ昭和二年再築壯大ノ美ヲ呈ス今七周年ヲ迎ヘテ追憶ノ念禁ズル能ハズ一同相謀リテ茲ニ記念碑ヲ建立シ以テ死者ノ幽魂ヲ慰メ追悼報恩ノ心ヲ表シ且之ヲ後人ニ傳ヘテ平素天變ニ備フベキヲ誠シム

昭和四年九月一日

真鶴尋常高等小學校 職員兒童  
卒業生并有志

(背面)  
建設委員 /  
真鶴尋常高小學校長 平田哲宗  
同 訓導 中村隆三  
同 佐藤孝平  
同 町田由太郎  
賛助員 /  
真鶴町外二箇村組合長 松本 起  
同 助役 熊本勢太郎  
同 學務委員 青木宗吉  
同 青木熊五郎  
碑石寄附者 間瀬忠次郎  
請負人 平井政吉  
石工 小澤菊蔵ノ彫刻  
(注) 真鶴町(1993)の記載1カ所訂正



写真 真鶴小学校の震災記念碑

真鶴町外二箇村組合とは岩村と現在は湯河原町になっている福浦村が真鶴町とその業務の一部を共同処理する組合で1946(昭和21)年まで続いた。

真鶴小学校の『創立八十年記念誌』には、地震当日のことが以下のように書かれている。校舎が第一震(本震のことか)で忽ち倒

壊した。校長を含む9名の教師が屋内にいたが、そのうち3名はすぐに屋外に逃れた。残り6名のうち一人は自力で屋外にでて通行人に助けられ、岡田校長は重症を負いながらも御真影を搬出した。他の人は残り4人を救助しようとし手を尽くしたが、薬品が置いてあるあたりからすぐに出火し一面火の海と化してなす術もなく4氏が焼死した。児童は皆家に帰っていたが8名が死亡した。10月より運動場において晴天の日のみ授業を再開した。(後略)

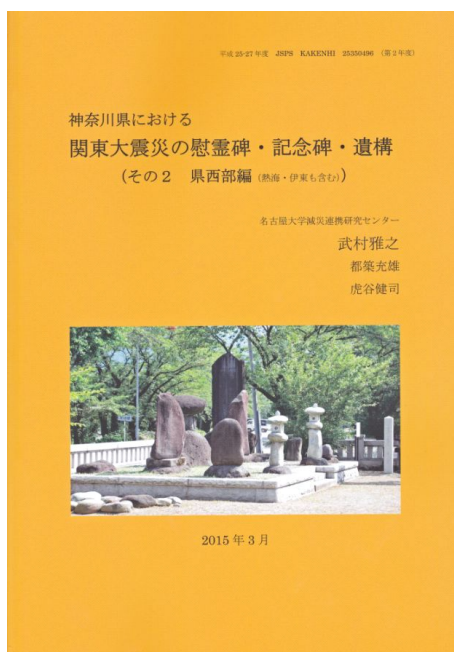


図1 報告書「県西部編」の表紙

(4) 意識啓発の面では、随時調査結果は現地の行政、博物館、学校、市民団体などが主催する市民向け講演会などで紹介し、防災意識の向上に役立てており、今後も継続していくつもりである。

一方、慰霊碑や記念碑のほとんどは住民によって建てられ、護られ、語り継がれてきたものであることから、そこには、復興時の費用負担や住民の協力や苦労の実態などが記載されていることが多い。このような資料は市民の立場から災害復興を研究するための貴重なデータである。さらに調査結果を精査分析して、災害と復興の研究に役立ててゆく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計17件)

武村雅之、天災不忘の旅第11回、工業都市川崎の震災、日本地震学会広報紙なみふる、no.105、4-5、2016

武村雅之、資料 - 神奈川県南足柄市での関東大震災の跡-石碑に見る農村復興、歴史地震、no.30、p1-22、2015(査読有)

武村雅之、天災不忘の旅第10回 箱根

八里、日本地震学会広報紙なみふる、no.102(6月号) p6-7、2015

武村雅之、連載コラムその8 駅名の由来、日本地震工学会ニュースレター、vol.4、no.3、p9-10、2015

武村雅之、連載コラムその7、津波の威力、日本地震工学会ニュースレター、vol.4、no.2、p10、2015

武村雅之、連載コラムその6、人生無常の覚醒、日本地震工学会ニュースレター、vol.4、no.1、p18、2015

武村雅之、資料 - 静岡県熱海市・伊東市での関東大震災の跡 - 災害教訓は生かされてきたか?、歴史地震、no.29、p17-32、2014(査読有)

武村雅之、資料 - 神奈川県内陸中部での関東大震災の跡 - 伊勢原・厚木・海老名・綾瀬・大和・座間、歴史地震、no.29、p33-49、2014(査読有)

武村雅之、連載コラムその4、地震町が語る教訓、日本地震工学会ニュースレター、vol.3、no.3、p7、2014

武村雅之、富士山宝永噴火と酒匂川 - 石碑と遺構にみる水との戦いの歴史、中部「歴史地震」研究年報、第3号、143-161、2014

武村雅之、横浜における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構、横浜市都市発展記念館紀要、第10号、p2-53、2014

武村雅之、横浜の関東大震災を歩く：東京との比較から見えること、横浜市史料室紀要、第4号、p2-24、2014

武村雅之、講演録「歴史に学ぶ防災論 - 関東大震災と神奈川県」、寒川町史研究、第26号、p3-22、2014

武村雅之、神奈川県茅ヶ崎市・寒川町での関東大震災の跡 - 相模川東岸の被害と復興、歴史地震、no.28、p1-17、2013(査読有)

武村雅之、関東大震災と茅ヶ崎(震災から90年関東大震災を見直す)、茅ヶ崎市史ブックレット、第16号、5-18、2013

武村雅之、講演録「地震のメカニズムと被害の実態：関東大震災と茅ヶ崎」(特集1 いま、関東大震災を考える) ヒストリアちがさき、第5号、p3-6、2013

武村雅之、講演録「関東大震災と神奈川県：地震のメカニズムと被害の実態」(藤沢市史講座) 藤沢市史研究、第46号、p4-39、2013

〔学会発表〕(計12件)

武村雅之、神奈川県横須賀市の関東大震災を歩く - 慰霊碑と死者数、日本地震学会秋季大会、神戸国際会議場、2015年10月

武村雅之、古都鎌倉の関東大震災を歩く - 世代を越えた社寺復興、第32回歴史地震研究会、京丹後市峰山総合福祉センター、2015年9月

武村雅之・都築充雄、鎌倉の関東大震災を歩く、日本建築学会大会、東海大学湘南キャンパス、2015年9月

武村雅之、神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構調査(2) 県西部+熱海・伊東、日本地球惑星科学連合大会、幕張メッセ国際会議場、2015年5月  
武村雅之、富士山宝永噴火と酒匂川-石碑と遺構にみる水との戦いの歴史、第5回中部「歴史地震」研究懇談会、名古屋大学、2014年11月

武村雅之、神奈川県山北など5町の関東大震災を歩く-震災復興の記録、日本地震学会秋季大会、トキメッセ新潟、2014年11月

武村雅之、神奈川県南足柄市の関東大震災を歩く-石碑から読める農村復興過程、第31回歴史地震研究会、名古屋大学、2014年9月

武村雅之、小田原の関東大震災を歩く、日本建築学会大会、神戸大学、2014年9月

武村雅之、神奈川県藤沢市の関東大震災を歩く、災害情報学会第15回研究発表大会、桐生市市民文化会館、2013年10月

武村雅之、神奈川県中部の関東大震災を歩く、第30回歴史地震研究会、秋田大学、2013年9月

武村雅之・都築充雄、横浜の関東大震災を歩く、日本建築学会大会、北海道大学、2013年8月

武村雅之、横浜の関東大震災を歩く：現代によみがえる90年前の記憶、日本地震学会秋季大会、神奈川県民ホール、2013年10月

#### [図書](計3件)

武村雅之・都築充雄・虎谷健司、神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構(その3 県東部編)、科研費報告書 JSPS KEKENHI 25350496(最終年度)、210頁、2016年3月

武村雅之・都築充雄・虎谷健司、神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構(その2 県西部編(熱海・伊東も含む))、科研費報告書 JSPS KEKENHI 25350496(第2年度)、148頁、2015年3月

武村雅之・都築充雄・虎谷健司、神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構(その1 県中部編)、科研費報告書 JSPS KEKENHI 25350496(初年度)、100頁、2014年3月

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

武村 雅之(TAKEMURA, Masayuki)  
名古屋大学・減災連携研究センター・寄付部門教授  
研究者番号：10416852

##### (2)研究分担者

都築 充雄 (TSUZUKI, Mitsuo)  
名古屋大学・減災連携研究センター・寄付部門准教授  
研究者番号：30645007

##### (3)研究協力者

虎谷 健司 (TORAYA, Kenji)  
名古屋大学・減災連携研究センター・寄付部門助教